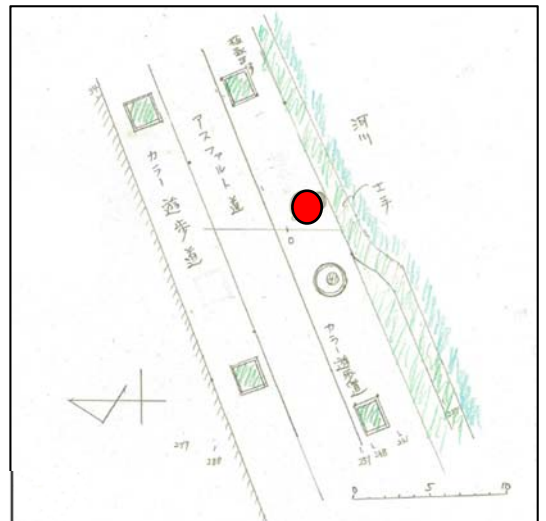


幸地河原ハーブ前のデイゴ(夫婦デイゴ)(1)



認定番号 115-1

樹種名	デイゴ	科名	マメ科	方言名	ディーグ	学名	<i>Erythrina variegata</i> L.				
形状・寸法	樹高 9.4 m	胸高周囲 2.8 m	根本周囲 4 m	樹幹占有面積 110 m ²							
	枝下高 2.7 m	枝張 東 8 m 西 4.5 m	南 9 m 北 2.2 m	最大樹冠幅 12.5 m							
通称	幸地河原ハープ前のデイゴ(夫婦デイゴ)			樹齢	100年(推定)						
所在地	名護市大東298-2			所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし				平均気温(°C)	16.7	16.1	18.1	22.7	25.3	28.1
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			地点:名護 年度:2016年 (気象庁HP)	降水量(mm)	237.0	123.0	212	357.0	124.5	309.5
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()				平均風速(m/s)	4.0	4.5	3.7	3.6	3.2	3.5
土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			風向	NNE S S NNE S WNW						
	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			平均気温(°C)	29.6	29.4	28.2	27.4	22.3	19.8	
	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			降水量(mm)	101.0	172.0	359.0	139	117.5	28.5	
基岩・母材				平均風速(m/s)	3.6	3.0	3.8	3.5	3.6	3.9	
				風向	S NNE SSW SSE NNE N						
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			年平均気温	23.6 °C		最高気温 34.1 °C				
	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			年降水量	2280.0 mm		最低気温 5.5 °C				
土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)						
	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良						
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻(状況)						
	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし						
				周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年
	2 支柱 a 有 b 無
	3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理
	4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類)
	5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類)
	6 解説板 a 有 b 無
	7 避雷針 a 有 b 無
	8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無
	9 その他
過去の治療歴と内容	
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 移住記念木 6 不明
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット

地上部の衰退度判定（認定番号115-1）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多、胴吹きひこばえも少ない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.64

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

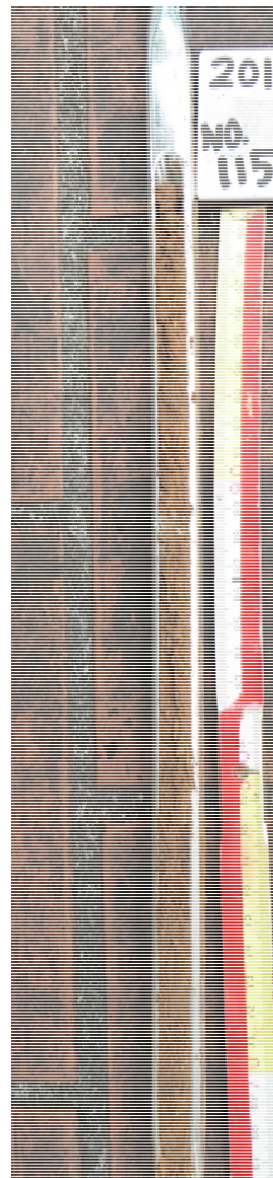
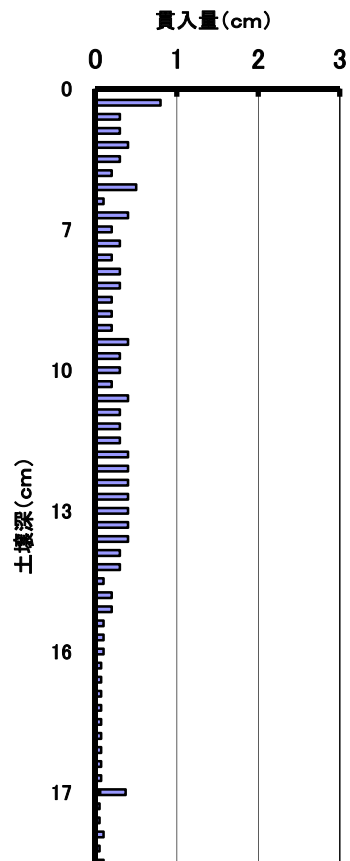
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係				○
根返り				○
幹折れ				○
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大				○
その他				

土壤調査結果（認定番号 115-1）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	5YR4/4	0-12	—	埴壤土	7.1	7.8
II	5YR3/4	12-22	—	埴壤土		
III	5YR5/4	22-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果



幸地河原ハーブ前のデイゴ(夫婦デイゴ)(1)

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道に設置された直径 2m のサークルの植枡に生育する。 ・近接する河川改修、道路整備等により枡の外は舗装される。 ・枡は黄色を呈する国頭マージで客土される。土性は埴壤土。土壌深は概ね 15cm と浅い。pH; 7.1、EC:7.8(dS/m)。 ・幹の傾きは根の発達(特に道路側)が阻害されたために生じていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根圏を確保することが重要と考える。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・東面は腐朽が著しく、地表下 80cm まで中空となっている。 ・シロアリの生活痕が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽の進行、シロアリの発生を定期的に観察し、被害程度に応じて防止対策を講じる。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・胸高周囲の樹皮の生存率は 30%程度で樹皮の活力は低い。 ・樹体は南側(川側)に大きく傾斜する。倒伏の可能性が高いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒伏防止のため、支柱の設置が不可欠で急を要すると考える。その上で不定根の伸長・肥大を待つ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・南東面の大枝が基部から裂けて生じたと推察される大きな傷口には癒合剤が塗布されているが、効果を発揮してない。 ・南面 1.5m～地際まで、治療痕があり、塗装されているが、効果はない。 ・幹下部の腐朽部からヒラタケが発生している。 ・幹の腐朽部に不定根が伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽部の除去、及び殺菌消毒、癒合剤の塗布を検討する。その際に不定根を傷つけないように留意する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・枝のバランスは良好であるが、幹が傾いている方向に特に伸びている。 ・中枝の一部(小枝の基部)に傷があるが、樹勢に影響を与えるほどではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南面の枝の伸長は樹体の傾斜を一層増大させるため、整枝が必要と考える。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・デイゴヒメコバチの被害は適切にコントロールされている。ベニモンノメイガ等食用性害虫の食害痕が若干認められる程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・維持するためには樹体の保持と活力の増進が不可欠と思われる。支柱設置と根系の確保が必須と考える。 	

